

「不害」は、「他のものを殺したり、傷付けたりしない」、「他を害さない・害を与えない」という仏教の教えです。この教えを守れるのならば、みだりに人の身体や心を傷付けることや、差別発言をすることも無いのです。

仏教徒になる十の約束である『十重禁戒』の第七番目に『不自讃毀他戒(ふじさんきたかい)』という約束があります。これは、「自分を褒め讃えたり、他人を貶して誹るようなことはしません」という誓いです。まさにこの「不害」を守ることが差別をしない誓いともなるのです。

本来「相手より優位に立つ」ためには「自分が努力する・自分の能力に依る」べきなのに、「相手のことを攻撃したり・相手の有ること無いことの噂を流したり」して「相手のあるべき立場」より下に貶める行為をよく見かけます。これは「自分が相手より優位に立ちたい」「自分の方が優れているはず」という思いが差別をする心の中にあるからなのではないでしょうか。この相手を貶め傷付ける行為も、直接相手の身体を傷付ける行為も、「害」という人を傷付け害する煩惱、すなわち自分自身をも傷つけてしまう心の状態に因るものであり、この煩惱に従わないことが「不害」なのです。

つまり「不害」は、煩惱に従ってしまう邪な自分を克服することなのです。

相手を傷付けない者同士であれば、平和ですね。そうできない人もいるかもしれませんが、そういう人でも自分の名誉欲や出世欲によって人を傷付けると、心が痛くなるでしょう。この心の痛みがあれば、まだ反省する心に繋げる事が出来ます。心が痛まないのであれば、それは心の危険信号です。

仏教は、苦しみから離れることを目的とした宗教です。苦しみから離れるために人を犠牲にしてはいけません。それもまた苦しみの原因になってしまいます。それを苦しみと感じないのは、苦しみから離れたのではなく、心が危険な状態になっただけなのです。

まずは、心を落ち着けて、よく物事をありのままに観て、偏らず、成すべきことを考え、煩惱に縛られない智慧を使えるように、「不害」という教えを考え行動し、自分を見つめることも必要なのではないのでしょうか。